三股町総合教育会議　資料

令和４年度全国学力・学習状況調査から見た学力向上の課題と今後の対応について

児童生徒の実態・課題に即した５つの施策

三股町教育課（令和４年１１月２４日）

全国学力・学習状況調査

全国学力テスト

本県 全科目平均下回る

4科目は九州最下位

文部科学省が28日に結果を公表した2022年度全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）で、本県公立小中学校の平均正答率は6科目全てで全国平均を下回った。平均正答率を整数で発表を始めた17年以降、全国平均を上回る科目がないのは初めて。九州7県の比較でも、4科目で最下位だった。本県は20年度から3カ年計画で学力向上に向けた授業改善に取り組んでいるが、数字として結果に表れなかった形。県教委は「全てで平均を下回ったのは大きな課題」と厳しく受け止めた。

教育事務所ごとの平均正答率（%）

	中部	南部	北部	県全体	全国（公立）
国語	66	63	64	65	65.6
算数	62	60	60	61	63.2
理科	63	60	62	62	63.3
国語B	67	65	66	67	69.0
数学B	49	47	48	49	51.4
理科B	46	45	47	47	49.3

本県は小学229校の6年約9500人と、中学130校の3年約8600人が受験した。小数点第1位を四捨五入した都道府県別の平均正答率は、本県の小学校は国語65%（全国公立校平均65・6%）、算数61%（63・2%）、理科62%（63・3%）。中学校は国語67%（69・0%）、数学49%（51・4%）、理科47%（49・3%）だった。

九州7県を比較すると、小学校は国語が上から4番目（ほか同率1県）だったが、算数と理科（同2県）はいずれも最下位。中学校は上から3番目の数学（同1県）を除き、国語、理科がいずれも最下位だった。

また、県が同日公表した教育事務所ごとの調査結果では小学校の科目を中心に地域差があり、中でも中部い傾向が出た。市町村別の結果は公表されていない。

県は20年度から「みやざき小中学校学力向上支援事業」を本年度までの3カ年で展開。県独自の学力テストを小学5年と中学2年を対象に毎年12月に実施し、その結果を教育現場に還元して、学び直しなど授業改善に力を入れてきた。

今回の結果に、県教委義務教育課は「今回の結果になった明確な理由などはまだ分からないが真摯に受け止めたい。学力支援事業の成果なども多角的に検証し、市町村教委と連携し対

教委長は「子どもたちと接する中で、最近は学校が出す宿題の量や頻度が少なくなってきたと感じる。自宅学習の質を上げる必要があるのではないか」と指摘した。（大谷美穂子）

★「プレみや」に掲載

令和４年７月２９日（金）宮崎日日新聞

三股町

本年度の結果は、小学校及び中学校において、国語、算数・数学、理科の３教科の平均正答率が全国より低く県よりやや低い結果となった。

三股町の学力向上に係る課題

■児童生徒の視点から

●記述式・短答式の問題において、**無回答率が高い**傾向にある。

●文章や資料から**必要な情報を読み取ったり、理由を答えたりする力**が身に付いていない。

●学力調査**問題に慣れていない**ため、問題の解き方が分からないときに諦めてしまう。

三股町の学力向上に係る課題

■指導者（授業）の視点から

●「まとめ」や「振り返り」の時間が不十分なため、本時で身に付けさせるべき力を定着させることができていない。

●児童生徒がアウトプットする場面が少なく、児童生徒が主体的に問題解決をする授業になっていない。

●実態把握が不十分で、困難さを感じながら授業に参加する児童生徒がいる。

学力調査等は授業改善のメッセージ

三股町の学力向上に係る課題

■児童生徒の視点から

- ●表現力の育成
- ●論理的に説明する力の育成
- ●学力調査問題に慣れる

■指導者（授業）の視点から

- ●まとめや振り返りの時間確保
- ●児童生徒が主体の授業改善
- ●個別の支援の充実

5つの施策

①授業改善

②論理力をつけるドリルの実施

③ICT機器等の活用

④ＮＩＮＯ・MIMの実施・研修

⑤小・中学生を対象とした学習会

調査結果を踏まえた具体的な取組

5つの施策

①授業力向上に向けた支援に取り組みます。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善（支援校訪問・研究授業公開・町研究所等）
県と連携した取組（「指導教諭から学び隊」「授業力向上サポート」「学びの確認応援プロジェクト」等）

②論理力をつけるドリルの計画的・継続的な取組の推進を図ります。

「自分の考えを論理的に説明する力」を身に付ける課題（ドリル・デジタル読解力スキル教材）を実践する。（授業及び校時程に学力向上に係る時間を位置付け計画的・継続的に実施）

③ICT機器を活用した学習指導の充実を目指します。

e-ライブラリ(AIドリル）や過去の調査問題を活用した学習やタブレット持ち帰りを推進し、家庭学習に活用する。
授業での効果的・効率的なICT活用の在り方について研究を深め、発信する。

④NINO・MIMの実施と研修の推進を図ります。

NINOにより認知能力や日常の学習・生活の様子、興味・関心等、個別の実態を把握し、授業に生かす。
MIMでは、学習が進んで行くに連れ、つまずきが顕在化する子どもを、つまずく前の段階で把握し、授業に生かす。

⑤小・中学生を対象とした学習会を行います。

算数・数学のつまずき段階である小3、中1を対象とした学習会を開設（R4年度は10月から中3を対象とした勉強会を開設）
少人数による学習指導及び個に応じた学習支援を行うことにより、参加児童生徒の基礎学力の定着を図る。

令和４年度　年代別小・中学校教諭構成状況【人数及び全教諭に対する割合%】　　令和４年１１月１０日現在

小学校	教諭数	６０歳代		５０歳代		４０歳代		３０歳代		２０歳代		講師
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
１三股小	27	4	15	9	33.3	2	7.4	8	29.6	4	14.8	6
２勝岡小	16	0	0	7	43.8	2	12.5	3	18.8	4	25.0	4
３梶山小	8	2	25.0	1	12.5	2	25.0	2	25.0	1	12.5	1
４宮村小	9	0	0	3	33.3	2	22.2	2	22.2	2	22.2	0
５長田小	4	0	0	1	25.0	1	25.0	1	25.0	1	25.0	1
６三股西小	30	2	6.7	9	30.0	4	13.3	4	13.3	11	36.7	6
合計	94	8	8.5	30	31.9	13	13.8	20	21.3	23	24.5	18

中学校	職員数	６０歳代		５０歳代		４０歳代		３０歳代		２０歳代		講師
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
三股中	38	3	7.9	12	31.6	12	31.6	9	23.7	2	5.3	12

【課題】本町では数年、新規採用職員が複数配置されており、そのことにより経験年数の少ない教員が多く在籍する。一方、経験３０年以上の教員や再任用職員も多くおり、様々な指導の経験の豊富な人材もいる一方、採用２校目の職員や経験１１～２０年のミドル層が空洞化し、ベテランと若手で職員が構成されている。大規模校では、ベテランの学年主任に、その他すべて若手という学年もある。学級経営力、授業の力量に個人差が見られ、メンタル面でのフォローが必要である。町として若手の教員に学級経営や授業力向上・授業改善に向けて学ぶ機会を提供することができるミドルリーダーの育成が必要である。

【課題解決のための取組】
〇若手教職員の授業力や指導力の向上に向け、実効性のある支援に取り組んでいきます。県の「指導教諭から学び隊」「授業力向上サポート」の推進や、町研究所での研究授業・研究発表、町研修会での発表・公開授業を通して、「授業の転換」に挑戦していく先生方を支援します。
〇町として学級経営や授業力に優れた人材を育成し、若い職員にセミナーや研究授業の提供を行う等、発信力のある教員を育成します。県外出張の機会を与え、先進校の取組を学び、町内の先生方（１～４年目の教員を対象）に域内研修を行うことで自信をもって学級経営や授業を行える力を育成していきます。

調査結果を踏まえた具体的な取組

①授業力向上に向けた支援に取り組みます。

指導教諭から学び隊

三股町立三股小学校能勢和弘指導教諭

小学校生活科授業づくり編

三股町教育研究所

研修会
（毎週、放課後実施）

研究授業

本年度の研究主題
「個別最適な学びの実現に向けた学習指導法の研究」
副題「みまたんモデル」の改訂とICTの活用を通して

全国学力・学習状況調査の結果分析から→授業改善の方向性を知る

調査結果を踏まえた具体的な取組

①授業力向上に向けた支援に取り組みます。

重点支援校訪問・支援校訪問での
授業者・管理職へのフィードバック

学力向上に向けた支援

三股町教育研究会　秋季研修会　R4.11.9(水)

【研究主題】

思いや考えを伝え合い、主体的に学ぶ三股西っ子の育成
～国語科における読解力育成のための児童の実態を生かす指導法の工夫・改善をとおして～

三股町教育研究会　秋季研修会　R4.11.9(水)

【研究主題】

思いや考えを伝え合い、主体的に学ぶ三股西っ子の育成

～国語科における読解力育成のための児童の実態を生かす指導法の工夫・改善をとおして～

調査結果を踏まえた具体的な取組

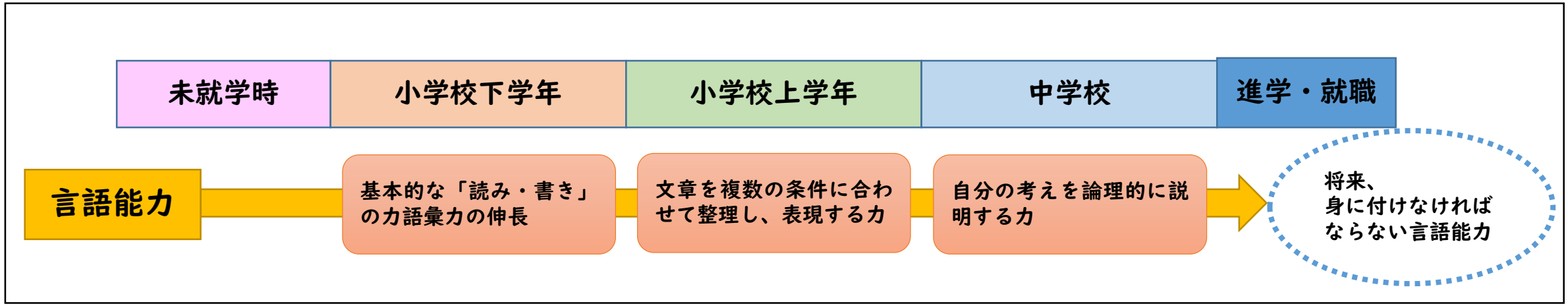
②論理力をつけるドリルの計画的・継続的な取組の推進を図ります。

「自分の考えを論理的に説明する力」を身に付ける課題（ドリル・デジタル読解力スキル教材）を実践する。（授業及び校時程に学力向上に係る時間を位置付け計画的・継続的に実施）

○ 「自分の考えを論理的に説明する力」が身に付けられるように、R3年度3月から各小学校で実施

○ 課題（使用するドリル）については、児童の実態に合わせて各学校が決定し、実施する。

○ 小中一貫して、段階的に力を付けていけるように、下図のような「ねらい」をもとに、全学年取り組ませる。



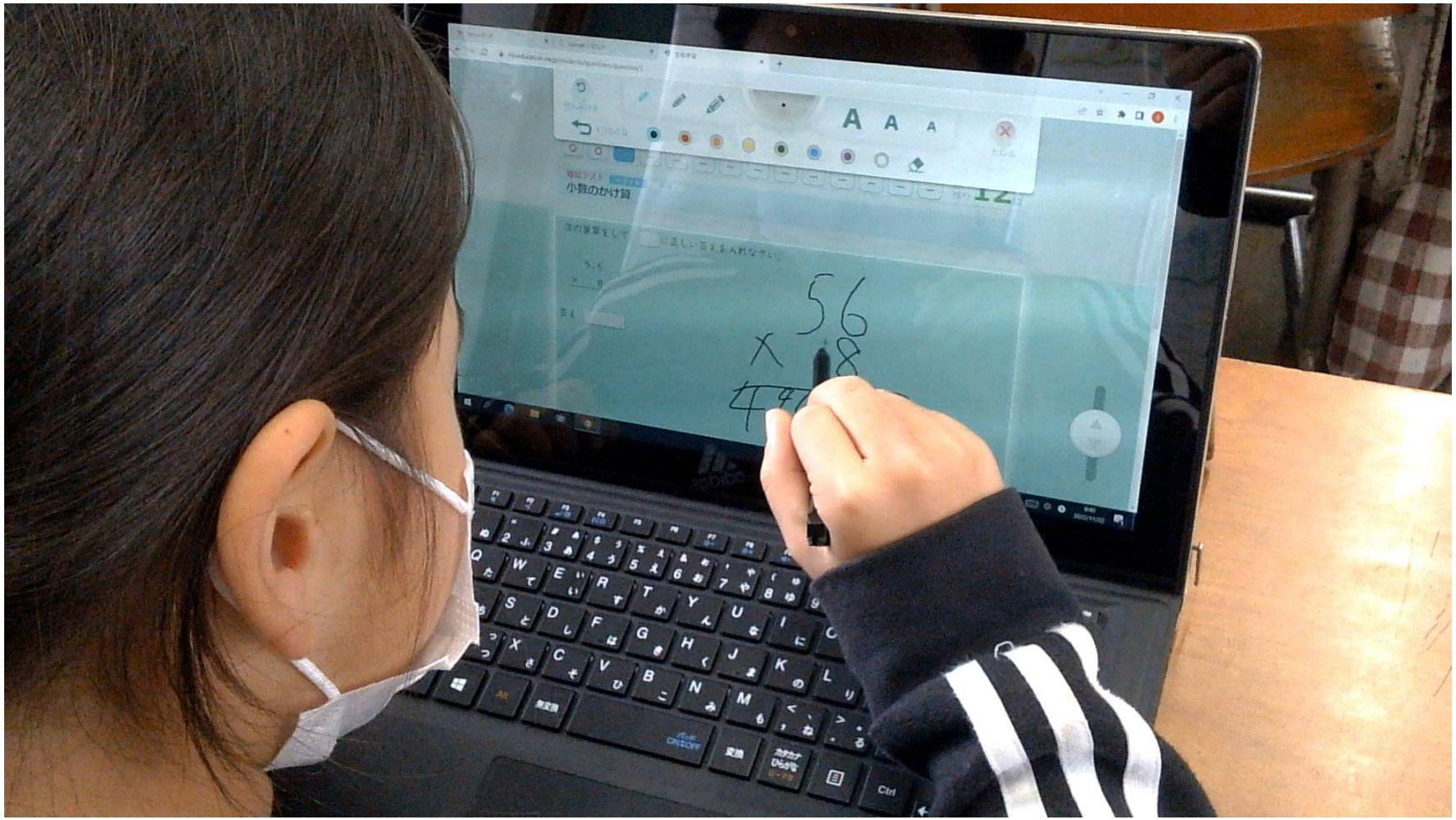
調査結果を踏まえた具体的な取組

③ICT機器を活用した学習指導の充実を目指します。

e-ライブラリ(AIドリル)や過去の調査問題を活用した学習やタブレット持ち帰りを推進し、家庭学習に活用する。
授業での効果的・効率的なICT活用の在り方について研究を深め、発信する。

調査結果を踏まえた具体的な取組

e-ライブラリ(AIドリル)



調査結果を踏まえた具体的な取組

ICTを活用した授業実践

県指定　令和３・４年度
ICT活用推進モデル校
三股町立三股小学校

町教育研究所
ICTを活用した授業の様子

調査結果を踏まえた具体的な取組

⑤NINOの実施拡大と研修の推進

○ 学習を進める上で必要とされる、教科横断的な力を測り、学級集団としての特徴、また、個の特徴を認知能力から把握し、授業改善及び個への支援の充実につなげる。

○ 特に、算数・数学のつまずき段階を前の学年内容をさかのぼって把握することができる。

○ 令和3年度は、小学3年～5年、及び、中学1年で実施したが、令和4年度は、小学2年～中学2年まで実施対象学年を拡大した。

	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
R3			実施	実施	実施		実施		
R4～		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	

○ 教育委員会においては、検査結果の分析を行い、その結果から、児童生徒をどのように把握し、授業で支援していくか学校に対して説明を行う。

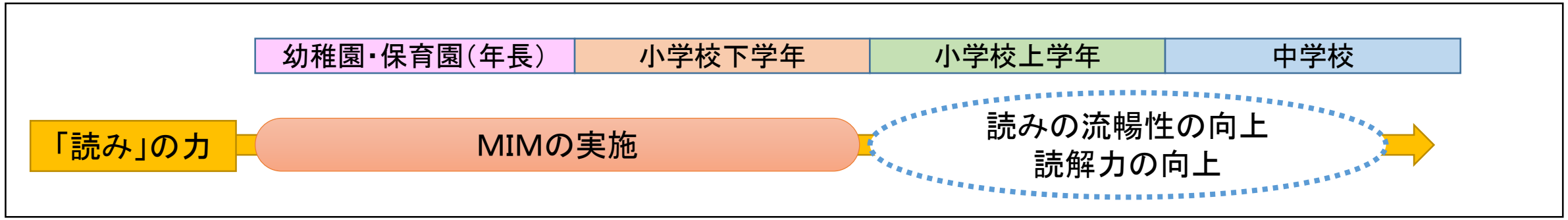
○ NINOの結果は、12月に実施するCRTテストとの相関も見るようにし、アシストシートの効果的な活用にもつなげる。

調査結果を踏まえた具体的な取組

MIMの実施

○ MIMでは、仮名文字の学習でつまずきやすい課題である「特殊音節」の習得を確実に遂げることをねらいとし、通常の学級において、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援を提供するものである。

○ 現在、三股町全小学校にMIMを配備してはいるが、実施については学校ごとに差がある状況である。
R4年度から小学校下学年において全学校実施するとともに、就学前での実施についてもお願いをしていく。



○ 幼保小中連携推進協議会において、就学前の「MIMの実施」について、お願いをしていく。
併せて、就学までに身に付けてほしい共通事項についても伝えていく。

○ MIMのアセスメントでは、学習が進んで行くに連れ、つまずきが顕在化する子どもを、つまずく前の段階で把握し、指導につなげていく。

調査結果を踏まえた具体的な取組

⑤小・中学生を対象とした学習会を行います。

算数・数学のつまずき段階である小3、中1を対象とした学習会を開設（R4年度は10月から中3を対象とした勉強会を開設）
少人数による学習指導及び個に応じた学習支援を行うことにより、参加児童生徒の基礎学力の定着を図る。

小学校３年生
参加者：２５名　毎週月曜日

小学生授業前と授業後の小テスト結果【９月】

	たし算		ひき算		わり算	
	授業前	授業後	授業前	授業後	授業前	授業後
平均点	85.2 →	91.3	55.7 →	65.2	80.9 →	90.1

中学校１年生
参加者：１１名
毎週水曜日

学力向上に向けた課題

令和５年度　三股中学校　学級編成状況（令和４年１１月１４日現在）

学級編成状況

学年	１年	２年	３年	小計	特支学級	合計	職員配当（教諭）
基準学級数	8	8	8	24	5	29	44
実学級数	9	8	8	25	5	30	
生徒数	314	315	297	926	25	951	
学級生徒数	35	※39	37				

※　実学級数＝中学生１年生を３５人編成した場合の総学級数を記入

【課題】

※　落ち着いた生活状態を継続することが難しい生徒や、特殊な事情を抱える家庭も多いため、職員も生徒指導、保護者対応に追われ、学校が担う役割が多岐にわたってしまっている。

※　来年度２年生は通常の学級の生徒が現在３１１名であり、８学級の場合３９名となる。
１学級の生徒数が多いことで、学力面や生徒指導面において、目が行き届かないことが懸念される。

○　小学校は町の運用により学級増、複式解消に取り組んでいる。
○　学力向上に向けては、学力向上を目指せる人的環境の整備が必要である。

三股町教育委員会の学力向上に関する取組

　本町の教育は、「未来を創る　心豊かで活気あふれる　文教三股の人づくり」を目指しています。子どもたちの夢の実現のために必要な力はたくさんありますが、学力もその中の大きな力です。いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力が求められている今、子どもたちの豊かな未来のために、時代に応じた授業への変化が求められています。

　そのために、県教育委員会と連携を図り、「すべて子どもたちの可能性を最大限に引き出す教育」の実現に向け、組織的・継続的に「学力向上」に取り組んでいきます。

すべての子どもたちの可能性を最大限に引き出す教育の実現